

アメリカ留学日記 (3)

Fall Quarter を終えて
～慣習の違いから体験したこと～

早稲田大学政治経済学部 3 年・California Polytechnic State University San Luis Obispo 留学中

服部 祐也

気持ちとしてはまだ留学が開始したばかりといったところですが、11 週間の fall quarter が終わり、いつの間にか 2005 年も終わろうとしています。今回はアメリカに来て私が慣習の違いから引き起こしたハプニングについて書いてみようと思います。

「郷に入っては郷に従え」という諺があります。広辞苑をひくと、「人は住んでいる土地の風俗・習慣に従うのが処世の法である。」という解釈が載せられています。私はアメリカに住んでいるのですから、ここに住んでいる人達が行う方法に従うのは当然のことです。しかし私はこの4ヶ月間で、「郷に入っても知らなかったら郷に従うことが出来ない」体験をいくつかしてきました。その中でも非常に衝撃的だった、自転車の交通ルールと銀行 ATM のデポジット方法について以下に書いていきます。

まず、アメリカでは自転車は車道を走らなければならないこと知らなかったことです。

その日は、San Luis Obispo に到着した翌日でした。まだ現在住んでいるアパートに引っ越すことが出来なかったため、近くのユースホステルに宿泊していました。自転車を借りることが出来たので、留学先の大学と引越先のアパートを見に行くことにしました。自転車と同時にヘルメットも渡され、「これを被るか被らないかは勝手だけど、すべては君の responsibility だからね。」と言われました。ヘルメットのバックルを締めるのが大変で自分の顔がこちらの人に比べて大きいことに多少のショックを受けながらも、また、自分のシルエットがマッシュルームそのもので恥ずかしくなりながらも、素直にヘルメットを被ることにしました。ヘルメットを被ったことでこちらの交通ルールはクリアできた、と考えた私は、車が日本とは反対方向を走っている点に注意しながら、歩道をゆっくりと走って大学へと向かいました。

出発して5分くらいしてからでしょうか。私は大きな通りを走っていました。すると向こうからバイクに乗った警官がこちらに近づいてきます。それまでは San Luis Obispo で白人以外を見た記憶がなかったので、アジア人を見て職務質問でもされるのだろうか、何たる人種差別だ、と考えていました。大きなバイクに乗った女性警官はにこやかに、それでいて厳しい顔で僕を呼び止め、そして言いました。

「In our country,・・・自転車は歩道を走っちゃいけないのよ。しかもあなたが今走ってたのは反対車線側じゃない。自転車は車道の隣にある bike lane を、車と同じ向きに走らなきゃいけないのよ。覚えておきなさい。」

周りにアジア人がいないこと、また、自分の英語力が未熟であることに必要以上に不安を感じていた私にとって、この言葉でさらに打ちめされました。車道を自転車が走らなければならないことなど知ら

ず、どうしていいかわからなかったからです。とにかく言われたとおりに bike lane を走り出したものの、車道をどれくらいスピードで走らなければならないのか、左折したいときはどうすればいいのか、その二つのみが頭の中を駆け巡っていました。結局私は出来る限り全速力で、直進または右折のみをして、なんとか大学までたどり着きました。入居予定だった現在のアパートもチェックした後、すぐに自転車をホステルに返したことは言うまでもありません。

あの婦人警官が最初に発した、「In our country」という三単語の響きは、4ヶ月以上経った今でも忘れられません。

次に、銀行 ATM のデポジットの仕方を知らず、危うく \$500 を無駄にしそうになったことです。

私の生活費は、両親に日本の口座に振り込んでもらい、それをこちらで引き出して使うことにしています。ただ、こちらの銀行口座を開設し、カードでの支払いも出来るようにしたかったため、アメリカの生活にも慣れ始めてきた 11 月の半ば頃、日本の口座から引き出した \$500 をこちらの銀行口座に預金するにしました。ATM で使われている用語はあまり親しみがなく、それ以前も何度か使うのに苦しんだことがあったのですが、なんとかお金の投入口を開けることに成功しました。ホッとして、その \$500 を投入し、レシートは出てきませんでしたが、次の授業へと向かいました。



ムスリムの一トラマダーンの体験をしたときに